

普及活動情勢報告

(各月の普及の動き毎月25日までに報告)

普及活動情勢報告 (平成25年11月)

中央東農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

集落営農の先進地で多様な運営事例を学ぶ (南国市長岡地区及び国府地区)



集落法人が運営するハウス内で
水耕ネギの説明を聴く参加者

10月30～31日、南国市の長岡地区及び国府地区の農業者を対象に、地域の担い手確保と圃場整備への意識を高めるため、広島県の集落法人を視察研修しました。

農業改良普及課からは、(株)トペコおぼらの若手も参加した担い手型集落営農、(農)聖の郷かわしりのアスパラ栽培、6次産業化に取り組む全戸参加型集落営農について現地で紹介しました。

参加者17名へのアンケート調査結果から、圃場整備や若手の育成、水稻以外の品目導入等の必要性を強く感じている様子が窺われました。

農業改良普及課は、将来の担い手確保を見据えた営農の仕組みづくりに向け、農業者の意識改革と集落リーダーの育成に取り組んでいきます。

ソラマメの播種体験 (大宮小学校)



小学生と交流する直販部会員

11月6日、谷相地区集落営農組合直販部会が香美市立大宮小学校の1年生(30名)を対象にソラマメの播種体験を実施しました。

始めに「ゆりかごの歌」を合唱し、部会員が「お母さんのお腹の中が皆さんのベッドです」と「ソラマメくんのベッド」を紹介しました。

播種時には、播種方法、おはぐろの位置や培土による発芽の違いなど、生命のふしぎを体験してもらう内容にしました。

部会員は「1か月後に植えます、それまで大切に育てて、来年の5月には収穫にきてください」と、次の交流を楽しみにしていました。

農業改良普及課は、今後も部会の活性化に向けて、体験授業等の開催を支援していきます。

農家レストラン「まほろば畑」研修会



凝固剤の使用方法を学んでいる様子

11月12日、「まほろば畑」のグループ員18名を対象に、既存のゼリーの品質向上と新メニュー開発を目的とした研修会を開催しました。

農業改良普及課は、研修会の講師の選定、研修内容を企画立案しました

参加者からは、「ゼリーを改良して提供したい。」「この技術をスイーツ以外のメニュー開発にも生かしたい。」との意見がありました。

農業改良普及課では、今後、地域食材のPR活動のための「食材カレンダー」作成を支援していきます。

J A南国市葉ニンニクの出荷始まる



箱詰め方法や品質の目慣らしを行う参加者

11月12日、J A南国市では、旬を迎えた葉ニンニクの本格的な出荷を前に「目慣らし会」を開催しました。

農業改良普及課からは、本年度の害虫の発生状況や鮮度保持試験の結果等について、J Aからは出荷状況や出荷調整に係る注意点等について説明した後、参加者で目慣らしを行いました。

農家からは、「台風の影響で葉が一時黄化したが、やっと回復してきた」、「今年は生育が早いですが、太いものが少ない」などの声が聞かれ、新規出荷者とも情報交換ができました。

農業改良普及課は、有望品目の一つである葉ニンニクの生産安定及び品質向上に向けた支援を行います。

ニラのジュニア博士授業（大宮小学校）



小学生の質問に答える門脇氏

11月18日、香美市立大宮小学校の3年生(26名)を対象に、地元特産物を紹介する出前授業(高知の特産物ジュニア博士育成事業)を実施しました。

農業改良普及課ではJ A土佐香美ニラ部会との調整や資料の作成など、授業の開催に向けて支援しました。

元ニラ副部会長の門脇節夫氏のハウスに移動し、クイズ形式での学習の後、教室で調整(そぐり)作業を体験しました。

小学生から「なぜニラ栽培を選んだか?」と質問され、「雇用労力の確保が大変で、ニラでは地元の高齢者に調整作業をお願いできた」と、地域の実情を垣間見る場面もありました。